

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを ともに生きよう感謝の心で



学校だより

12月号

横浜市立谷本小学校
令和元年11月29日

HP アドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamoto/>

「体験」から学ぶ

校長 和内 昭子

12月は人権週間があります。本校では人権週間に、全校で同じテーマで子どもたち自身が人権課題について考える授業を行っています。

今年度は、NPO法人補助犬情報センターから講師の方をお招きして、補助犬について学びます。日本には「身体障害者補助犬法」という法律が身体障害者の自立と社会参加を目的として2002年5月22日に成立。この法律に基づいて補助犬は訓練・認定されています。補助犬とは目や耳、手足に障害のある方をサポートする「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」のことです。12月10日に日本に一つしかない補助犬情報センターの方と盲導犬ユーザーの方をお招きしてお話を伺ったり、盲導犬の働く姿を見たりします。補助犬は、障害のある方が自立と社会参加をするための大切なパートナーであり、ユーザーの方々が衛生・行動管理に責任をもって社会参加している様子を教えていただく予定です。街で盲導犬を見かける機会も多くなり、私たちが何に気を付け、何ができるかを具体的に学び、考える機会としたいと思います。

また、4年生は11月19日に車いすバスケット出前授業を行いました。教育委員会の取り組みで2020年東京パラリンピックに向けて、横浜市内の小中学校を対象に「障害者スポーツ体験会」を実施しているので、谷本小にも川崎の車いすバスケットボールチーム選手の方々をお招きして、いろいろ教えていただきました。子どもたちは、初めての体験だったので、体験を通して学んだことをいくつか紹介します。「車いすに乗る前はできるかなと心配していたけど乗ってみるとうまくできた。でも、止めるのが難しかった。車いすバスケットを体験してパラリンピックの車いすバスケットの試合を見てみたくなりました。」

「車いすですぐに切りかえることが難しかったです。シュートをすわりながらやると高くシュートが届きません。体が不自由な人がこんな難しいことをとてもうまくやっています。」「すごいな。」と思いました。」「車いすバスケットの車いすに乗って車いすを動かすのは難しかったです。車いすバスケットの選手の、5～6cmの段を上がったるとき、車いすをかたむけると言

いたので、もし、車いすが倒れたら危ないなと思いました。車いすバスケットの選手はいろいろ苦労しているけど、車いすバスケットを楽しくやっているの、スポーツは人の世界を変え



ると思^{おも}いました。」

子どもたちの感^{かん}性^{せい}の豊^{ゆた}かさ^{かん}に体^{たい}験^{けん}から学^{まな}ぶことの大^{だい}切^{けつ}さを感じ^{かん}ました。